

令和3年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立城東小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

4 本校の参加状況

- ① 国語 70人
- ② 算数 70人

5 留意事項

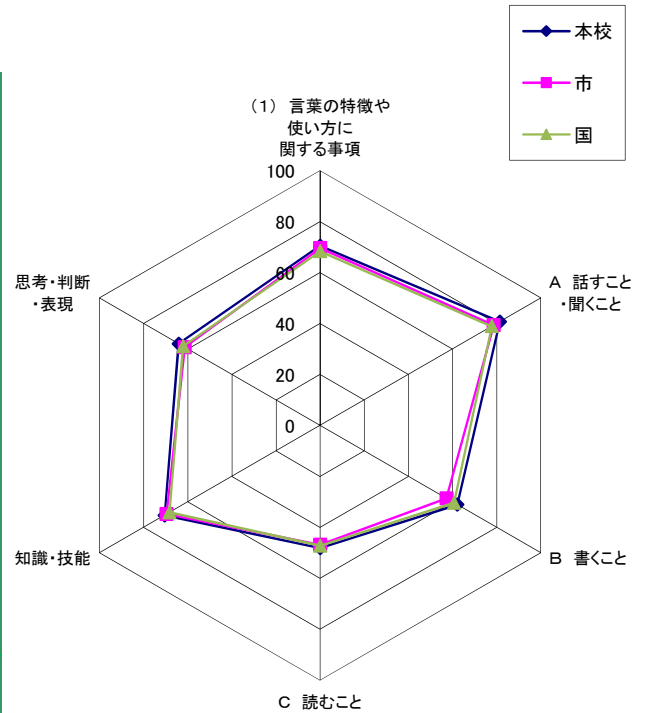
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立城東小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	70.5	69.6	68.3
	(2) 情報の扱い方に関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	81.4	78.7	77.8
	B 書くこと	62.1	57.3	60.7
	C 読むこと	48.1	46.9	47.2
観点	知識・技能	70.5	69.6	68.3
	思考・判断・表現	64.1	61.4	62.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

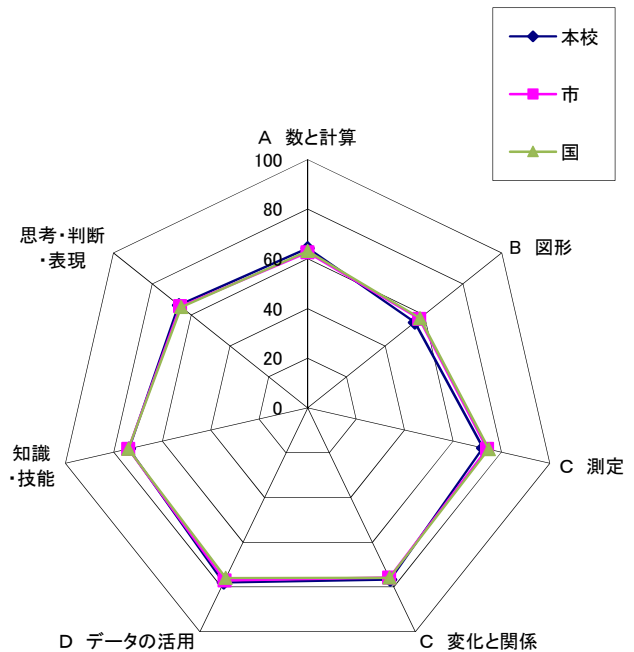
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	○「言葉の特徴や使い方に関する事項」の正答率は、全国や市の平均正答率を上回っている。 ○「文の中における修飾と被修飾との関係を捉える」設問では、全国平均正答率を9.3ポイント上回っている。 ●「思考にかかわる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使う」設問では、全国平均正答率を4.6ポイント下回っている。	・語彙の使い方を理解し、話や文章の中で正しく使うために語彙力を増やしたり、文章力を高めたりできるように、授業や日常の様々な場面で指導する。
A 話すこと・聞くこと	○「話すこと・聞くこと」の正答率は、全国や市の平均正答率を上回っている。 ○「資料を用いた目的を理解する」設問では、全国平均正答率を8ポイント上回っている。 ●「目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える」設問や「目的や意図に応じ、資料を使って話す」設問では、全国平均正答率を上回っているものの、正答率は低い。	・互いの考えをよく聞き、その共通点や相違点を整理したり、資料を活用したりしながら話し合えるように、授業や日常生活の様々な場面で情報交換や意見交換、討論の場を設定し、指導する。
B 書くこと	○「書くこと」の正答率は、全国や市の平均正答率を上回っている。 ○「自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える」設問では、全国や県の平均正答率をやや上回っている。 ●「目的や意図に応じて、理由を明確にしなが、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」設問では、県の平均正答率を0.8ポイント下回っており、無解答率も18.6ポイントと高い。	・目的や意図に応じた文章を書く機会を設定し、自分の考えが伝わるような文章を書けるよう指導する。 ・日常生活の中で文章を書く機会を増やしたり、授業の中で文章を書く機会を多く取り入れたりと、習慣化を図り、スキルの向上を目指していく。
C 読むこと	○「読むこと」の正答率は、全国や市の平均正答率を上回っている。 ●記述式の「目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける」設問や「目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する」設問では、全国や県の平均正答率を上回っているものの、正答率は4割以下と低い。	・読書経験を豊富にすることで、文章に触れる機会を増やし、読解力の向上につなげる。 ・文章中から必要な情報を見付けたり、要約したりする機会を増やし、文章の要旨を的確に捉えられるようにする。

宇都宮市立城東小学校第6学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	64.3	62.6	63.1
	B 図形	55.2	57.5	57.9
	C 測定	72.4	74.1	74.8
	C 変化と関係	76.7	75.8	75.9
	D データの活用	78.0	77.1	76.0
観点	知識・技能	73.8	74.1	74.1
	思考・判断・表現	66.3	65.6	65.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	○「数と計算」の正答率は、全国や市の平均正答率を上回っている。 ●商が1より小さい等分除の場面の問題では、全国平均を4.5ポイント上回っているが正答率は60%と低い。	・文章問題では、図や数直線を用いて、問題文の中から、必要な情報や数値の関係を読み取ることができるよう指導する。 ・わり算では、日常生活の場面に即した問題を実生活と関連付けて考えさせ、問題に合わせた余りの処理の仕方が身に付くよう指導していく。
B 図形	●「図形と測定」の正答率は、全国・市の平均正答率を下回っている。 ●図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述する問題では、全国平均正答率を下回った。	・複合的な図形についての学習では、具体物を操作しながら考えたり、ペア活動などで友達と考えを伝え合ったりしながら取り組む機会を設け、解決方法を理解できるように指導する。 ・図形の面積を求める学習では、それぞれの図形の性質について理解を深めると共に、説明に用いることができるように指導する。
C 測定	●条件に合う時刻や時間を求める問題では、全国・市の平均正答率を3.5ポイント下回っている。	・模型の時計を使って、針の動きや数直線上で時間の経過を確認することを通して、具体場面をイメージしながら問題を解決できるように指導する。 ・問題解決の方法を自分の言葉で表現できるように、説明する活動を増やししながら定着を図る。
C 変化と関係	○道のりと時間との関係について考察する問題では、全国平均正答率を3.3ポイント上回っている。 ●除法を活用して速さを求める問題では、全国平均正答率をわずかに下回った。	・比較量と割合から基準量を求める問題では、二つの数量の関係を数直線に表して視覚的に捉えたり、類題に多く取り組ませて問題場面的に把握したりすることができるように指導する。
D データの活用	○「データの活用」の正答率は、全体的に全国や市の平均正答率を上回っている。 ●棒グラフから数量や項目間の関係を読み取る問題では、全国平均正答率をいずれも下回っている。	・グラフの学習では、資料から読み取れることについて、いくつかの資料を比較して分かることを伝え合う活動を取り入れる。その際、根拠となるデータや変化の傾向等を基に理由を付けて説明できるよう指導する。 ・他教科、領域における授業においても、積極的にグラフを読み取る機会を増やし、読み取った内容を自分の言葉で説明する機会を多く取り入れるようにする。

宇都宮市立城東小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

- 「朝食を毎日食べていますか」に肯定的回答をした児童の割合は、全国の平均を5.1ポイント上回っている。家庭での食事の習慣が身に付いている様子がうかがえる。食事の大切さについて、児童への指導や、懇談会での保護者への啓発等、更に力を入れたい。
- 「自分には良いところがあると思いますか」に肯定的回答をした児童の割合は、全国の平均を11.9ポイント上回っている。「城東っ子賞」や学級活動等で児童の善い行いを称賛する活動の成果が表れてきている様子がうかがえる。今後も、学習や生活など、様々な機会でも多くの児童の善い点を称賛し、自己肯定感を育てていきたい。
- 「学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」に肯定的回答をした児童の割合が高く、100%である。本校と大学とが連携して取り組んでいるプログラミング教育や、授業の中で積極的にICTを取り入れてきたことなどが、児童の意識の中に浸透していると考えられる。今後もICTの有用性を検討し、有効に活用していきたい。
- 「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見の良さを生かして解決方法を決めていますか」に肯定的回答をした児童の割合は、全国の平均を12.5ポイント上回っている。本校で昨年度から取り組んできた特別活動の研究を進めることで、児童の意識の中に話し合い活動の大切さが浸透したと考えられる。今後もさらに研究を深めていきたい。
- 「国語の勉強は好きですか」に肯定的回答をした児童の割合は、県の平均を25.3ポイント上回っている。漢字検定への取り組みが児童の意欲を高めていると考えられる。児童がさらに国語に興味をもてるような教材の工夫や、家庭学習の啓発等をより積極的に進めていきたい。
- 「算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか」に肯定的回答をした児童の割合は、県の平均を6.4ポイントと大きく上回っている。今後もさらに算数の学習の中で、実生活での活用場面を設定するなどして算数の有用性を伝える授業の工夫に取り組んでいきたい。
- 「将来の夢をもっていますか」に肯定的回答をした児童の割合は、県の平均を約3ポイント下回っている。今後も、「キャリアパスポート」を活用し児童の将来への関心を高めていきたい。

宇都宮市立城東小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎的・基本的な知識・技能の定着	本校では、「校内漢字・計算検定」を年間10回実施したり、市のステップアップシート（ミヤリーテスト）を活用したりして、基礎基本の定着に努めている。また、朝の学習（パワーアップタイム）を各学級ごとに計画的に実施し、プリントやドリル学習を行っている。	国語では、「言語の特徴や使い方に関する事項」の正答率は、ほぼ全国、県や市と同等であるが上回っているが、漢字や語句を文の中で正しく使う設問においては、無回答率が高いものや、正答率が低いものがあり、課題が見られる。 算数では、「知識・技能」の観点で、特に、速さと道のりを基に、時間を求める式に表す設問において、全国や県の平均正答率を上回り、正答率が、87%以上と高かった。「数と計算」の正答率は、全国、県、市を上回っている。
ノート指導の充実	校内ノートコンクールを年2回実施している。低・中・高学年、それぞれの発達段階に応じて明確な目標を設定し、学校全体で分かりやすいノートづくりの指導を行っている。自分や友達のをノートにまとめる時のきまりやマークを校内で統一している。模範となるノートを展示し、同学年、他学年のノートを見ることで、児童がよりよいノートづくりを意識できるようにしている。	国語の「書くこと」の領域では、全国、県、市の平均正答率を上回っている。質問紙では、「算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている」と肯定的回答をした児童の割合は、全国、県の平均を上回っている。
児童が学ぶ楽しさを味わい、進んで考える授業づくり・学びの「城東スタイル」	学校課題「学ぶ楽しさを味わい、進んで考える参画する子供の育成～よりよい集団活動を通して、なりたい自分をつくる『城東スタイル』の構築～」を昨年度から継続し、児童が学ぶ楽しさを感じながら思考力・判断力・表現力を発揮して主体的に学習活動に取り組めるような授業づくりを目指している。めあてを明確にし、見通しをもって自ら課題に取り組んだり友達と学び合ったりできるような学習環境づくりに努めている。	本校では、国語、算数ともに、「思考・判断・表現」の観点において全国、県、市の平均正答率を上回っている。国語では、「話すこと・聞くこと」の正答率が全国、県、市の平均正答率を上回っている。特にスピーチで用いる資料を相手に示す目的の説明として適切なものを選ぶ設問の正答率が高い。 質問紙では、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と回答した児童は、全国の肯定的割合を上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
国語では、「目的や意図に応じて、理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」の記述式の設問において、県の平均正答率をやや下回った。 算数では、小数を用いた倍についての、基準量を1としたときの比較量を説明する文を読んで、ほかの数値の場合においても同じように説明する記述式の設問では、全国や県の正答率をやや下回り、無回答率も20%と高く、課題が見られる。	自分の考えを図や文章で表現し、他者に分かりやすく伝える力の育成。	各教科等でめあてやねらいを明確にし、児童が自分の考えを表現したり、互いに考えを伝え合う活動が充実したりするような授業づくりを目指す。また、授業のまとめや振り返りにおいて、学習したことを考えさせ、目的を意識した文章を書くように指導していく。